

シンポジウム

「生涯学」の挑戦

— 高次脳機能障害から見える新しい生涯観 —

65歳以上の高齢者の割合が総人口の28%を超えている — そのような超高齢社会への対応は喫緊かつ重要な社会問題です。これまでは、人間の生涯は「成長から衰退へ」という単純な枠組みで捉えられてきましたが、人生100年時代の到来とともに、従来のような固定的な生涯観だけで人間の生涯を理解することは難しくなっています。

我が国の未来に貢献すべく始められた学際的研究プロジェクト「生涯学の創出：超高齢社会における発達・加齢観の刷新」では、従来の生涯観を刷新し、人間の生涯における変化を、社会との相互作用の中で多様な成長と変容を繰り返す生涯発達のプロセスとしてとらえ直すことを目的とした、新しい学際的研究領域である「生涯学」を創出し、2020年度から研究を展開しています。

今回のシンポジウムでは、高次脳機能障害（記憶・注意・感情などの「高次な」脳機能に障害を有すること）の研究で著名な鈴木匡子東北大学教授をお迎えし、プロジェクトから心理学、社会学、文化人類学を専門とする研究者が登壇し、一般の方々にもわかりやすく、多様な視点から人間の「新しい生涯観」の構築に向けた議論を展開します。

※本シンポジウムと発表される成果の一部は科学研究費助成事業の支援を受けて実施しています。

日時

2022年

11月5日(土)

14:00-15:30

当日会場受付開始時間 13:30

(申込締切:2022年11月2日(水)17:00)

方式

ハイブリッド開催

会場

京都大学医学部
創立百周年記念施設
芝蘭会館稲盛ホール(2F)

京都市左京区吉田近衛町 京都大学医学部構内
<https://www.med.kyoto-u.ac.jp/shiran/kotsu/>

参加費:無料

定員:会場 90名 / オンライン 200名

必ずお申し込みのうえ、ご参加ください。



鈴木匡子 教授
東北大学大学院
医学系研究科



倉田誠 准教授
東京医科大学
医学部医学科



柴田悠 准教授
京都大学大学院
人間・環境学研究科



朴白順 特定助教
京都大学大学院
人間・環境学研究科

申込詳細 <https://www.kyodai-original.co.jp/?p=16491>

主催 文部科学省科学研究費助成事業
学術変革領域研究(A)「生涯学」総括班

共催 京都大学大学院人間・環境学研究科

後援 (一社)日本高次脳機能障害学会
日本認知心理学会神経心理学部会
日本パーソナリティ心理学会



お問合せ

京大オリジナル株式会社 プロジェクトマネジメント部

TEL: 075-753-7778 E-mail: kensyu@kyodai-original.co.jp

14:00～14:05 挨拶

月浦崇「生涯学」領域代表(京都大学大学院 人間・環境学研究科教授、認知神経科学)

14:05～14:50 特別講演「ヒトの脳のはたらきは加齢や脳損傷でどう変化するのか」

鈴木 匡子 (東北大学医学系研究科 高次機能障害学 教授)

専門は神経内科学、神経心理学。東北大学医学部脳疾患研究施設脳神経内科で神経内科学を学んだ後、メルボルン大学神経心理学教室客員研究員。東北大学高次機能障害学助手、講師を経て、2007年山形大学大学院医学系研究科高次脳機能障害学教授。同内科学第三講座神経学分野教授を経て、2017年より現職。

著書に「壊れた脳と生きる ―高次脳機能障害「名もなき苦しみ」の理解と支援」(鈴木大介氏との共著、ちくまプリマー新書、2021年)、「視覚性認知の神経心理学」(医学書院 2010年)など。神経内科専門医・指導医、日本認知症学会専門医・指導医。日本神経心理学会・日本高次脳機能障害学会・日本神経精神医学会理事など。

14:50～15:10 特別講演を受けて

倉田 誠 (医療人類学：東京医科大学 医学部医学科 准教授)

専門は、医療人類学、生命倫理学、障害学、オセアニア地域研究。1976年三重県生まれ。広島大学教育学部、神戸大学大学院総合人間科学研究科。博士(学術)。著作に「類似性から知識の動態へ ―サモア社会の病気概念からみた多配列分類にもとづく社会分析の再検討」(『多配列思考の人類学 差異と類似を読み解く』(風響社、2016年))、「『障害』をめぐる共生のかたち ―サモア社会における障害支援NGOロト・タウマファイによる早期介入プログラムの事例から」(『交錯と共生の人類学オセアニアにおけるマイノリティと主流社会』(ナカニシヤ出版、2017年))など。

柴田 悠 (社会学：京都大学大学院 人間・環境学研究科 准教授)

専門は社会学、社会保障論、近代化論。1978年生まれ。京都大学総合人間学部卒業、同大学院人間・環境学研究科博士後期課程修了。同志社大学准教授、立命館大学准教授を経て、2016年度より現職。著書に『子育て支援が日本を救う―政策効果の統計分析』(勁草書房、社会政策学会賞受賞)、『子育て支援と経済成長』(朝日新書)、『コロナ後の世界』(筑摩書房、分担執筆)、『Labor Markets, Gender and Social Stratification in East Asia』(Brill、分担執筆)などがある。

朴 白順 (神経心理学：京都大学大学院 人間・環境学研究科 特定助教)

専門は神経心理学。2010年、京都大学大学院人間・環境学研究科修了、人間・環境学博士取得。2011年より同研究科認知・行動科学講座研究員。2017年より神戸学院大学総合リハビリテーション学部特命助教。2021年より現在まで京都大学大学院人間・環境学研究科認知・行動科学講座特定助教。2012年～2019年の期間は、洛和会音羽病院、顕鐘会神戸百年記念病院、慈恵会新須磨病院等のもの忘れ外来心理士を兼任。公認心理師。臨床神経心理士。

15:10～15:30 ディスカッション/質疑応答 (会場、及びZoomからもご質問を受け付けます)

【注意事項】

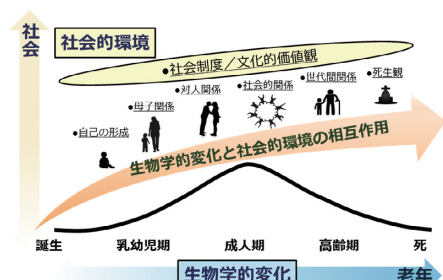
■Zoomの仕様や使い方に関するお問い合わせには、お答えしかねます。また、お客様の環境等が原因で発生した、視聴できないといったトラブルにつきましては個別の対応はございません。予めご了承ください。

■次の行為はお控えください。

- ・本イベントの全部又は一部を第三者に提供する行為
- ・本イベントの録音、録画、撮影、その他複製行為
- ・同時に二台以上のデバイスで本サービスを利用する行為

「生涯学の創出：超高齢社会における発達・加齢観の刷新」のご紹介

65歳以上の高齢者の割合が総人口の28%を超えている我が国にとって、超高齢社会に対して社会全体としてどのように対応していくのかは、喫緊の解決が求められる重要な社会問題です。これまでは、人間の生涯は「成長から衰退へ」という単純な枠組みでとらえられてきましたが、人生100年時代の到来とともに、従来のような固定的な生涯観だけで人間の生涯を理解することは難しくなっています。そこで本領域では、従来の生涯観を刷新し、人間の生涯における変化を、社会との相互作用の中で多様な成長と変容を繰り返す生涯発達のプロセス(図1)としてとらえ直すことを目的とした、新しい学際的な研究領域である「生涯学」を創出し、研究を展開します。



(図1)

そのために本領域では、行動解析を基盤とする認知心理学的研究、脳機能の計測による生理心理学的研究、精神・神経疾患を対象とする臨床心理学的研究、社会調査を基にした社会学的研究、多様な文化を対象としたフィールド調査を基にした文化人類学的研究などの基盤的研究と、それらの基礎的研究の成果を社会実装するための教育学的研究を有機的に連携させ、基礎から応用までの展開を進める多元的な人間研究を実施する予定です。本領域の進展により、全世代の人々が豊かな人生を享受できる超高齢社会を実現するための科学的基盤の解明と、その成果を元にした社会実装を行い、新しい生涯観を社会と共有することをめざしていきたいと思えます。(領域代表者：月浦崇・京都大学大学院人間・環境学研究科・教授)

<https://www.lifelong-sci.jinkan.kyoto-u.ac.jp/>

